

昭和四十六年六月一七日

第三種郵便物認可

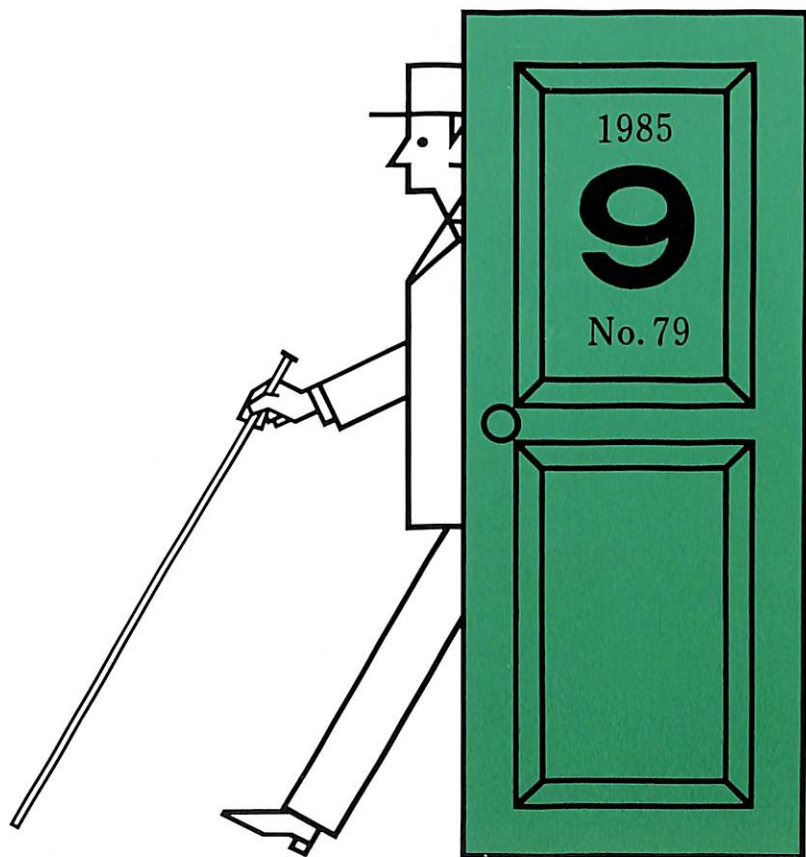
昭和六〇年八月一五日

SSK通巻第一三四八号（毎月六回、5の日、0の日発行）

視覚 障害

その研究と情報

特集＊盲老人の生きがいを求めて

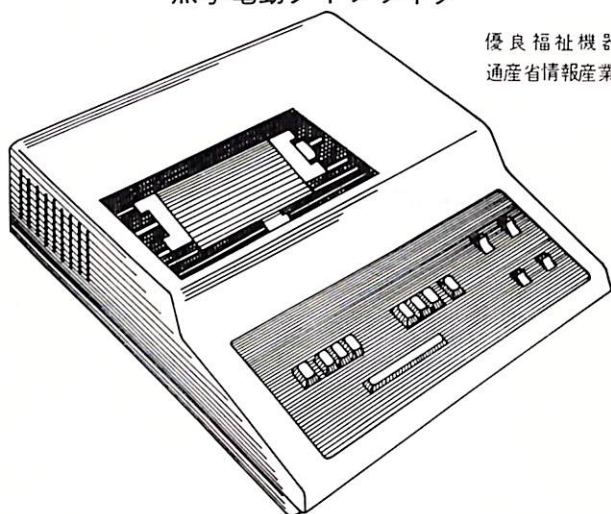


ISSN 0385-7476
SSK

Braille Data Terminal

ESA 731

点字電動タイプライタ



優良福祉機器表彰制度
通産省情報産業局長賞受賞

ESA731はコンピュータをはじめとする
情報機器との接続が可能な電動タイプライタです
使い方いろいろ。点字情報の
未来を拓くためのお役に立ちます。

特 徴

- 簡単な操作
パーキンスタイプライタと同じキー配置
- 利用範囲を大きく広げる点字プリント機能
毎秒10文字のハイスピード印字
- 良質な印字
110kgの用紙までプリント可能
- 改ページ機能
連続用紙の採用により自動的にページ変えが可能

主な適用分野

- カナタイプ↔点字タイプ思いのまま
自動点訳、自動代筆、録音タイプ
- 点字版ワードプロセッサ
小部数の複製が手軽にとれます。
- コンピュータ端末装置
マイコン、ミニコン、大型コンピュータの
いずれにも接続してコンピュータの情報を
点字で入手できます。

(株)白雷商会

福祉機器事業部

〒174 東京都板橋区前野町3-48-2 電話03(969)8266(代表)

目 次

1985年 9月 No.79

2 ページ評論	常盤 勝憲	2
---------	-------	---

特集 盲老人の生きがいを求めて

盲老人の豊かな老後

— その歴史と現状および課題 —	本間 明雄	5
------------------	-------	---

在宅盲老人への声の便り	川本 俊憲	11
-------------	-------	----

在宅盲人の生きがい

— 名盲老人クラブのあゆみ —	金沢 明二	16
-----------------	-------	----

海外の盲老人ホームを訪ねて	酒井 久江	24
---------------	-------	----

ボランティア西・東

「ありがとう」の言葉に支えられて10年 — 大阪手びきの会 —	35
---------------------------------	----

この人と語る

アジアに手を伸べよう	岩橋 明子・金 治憲	40
------------	------------	----

インフォメーション・コーナー	54
----------------	----

編集後記	68
------	----



新しい観点からの盲老人福祉を

養護盲老人ホーム慈母園理事長 常盤 勝憲

人間は自然が表現する様々な色彩によって「美の文化」を学んだと言われている。一つの花を観賞するのにも型よりも色から先に思考するものである。色の持つ強烈な印象である。この色彩は特に今日の社会生活の中にあって大きな役割を演じ、色彩が文化の先端に存ると言っても過言ではない。この大きな存在から隔絶されている視力障害者は文化の恩恵を充分受けられない薄幸な人達である。

壺坂寺が昭和36年、浄瑠璃「壺坂靈驗記」の説話を生かして盲老人ホーム慈母園を開園しようとした時、盲老人専門のホームが社会福祉の施設として運営出来ないと指摘された大学教授の警告を無視して設置を進めた私は、孤老な盲老人の寂しさを想像し、盲老人の喜びを求めて、その福祉の必要性を説き廻った。もう24年前の話である。

昭和36年、日米修好記念事業として歌舞伎がはじめて全米各地で公演された。「勸進帳」「籠釣瓶」「壺坂靈驗記」が上演された。特に「壺坂」が観衆の心を打った。盲目の夫、沢市の目を治そうと妻のお里が山道14丁を3年の願をかけて通い、満願の日に開眼の喜びを得た物語は、米国人、特に女性に感銘を与えた。日本の女性の美しさ、やさしさ、深い夫婦愛、彼らの想像を越えたものだと言った。盲人にはこのやさしさが必要である。

古い仏典の中に盲人に象を触らせる話がある。耳を触った盲人は蓑のようなものだと言う。また牙を触った盲人は象は鋤のようなものだと言う。全体を見ることの出来ない苦しみはどうしても偏見にしか表現出来ないのである。人間の五感の中で大きなウエイトを占める視覚、この苦しみを越えてきた盲人の心を察する時、私は自分の無力を恥じるのである。盲老人ホームに在園するお年寄りに「目

の见えないことを忘れ盲人になりきれ」と園長さんが教えたり、言葉で成り立ったりしても、この実現は不可能である。

光を失っていることは日常の動作を緩慢にし、五感の衰えから偏見がより助長される。盲老人福祉は暗黒の世界との戦いでもある。そして、盲老人ホームは盲老人と生活を共にし、その福祉に心を用いている。この中でこそ盲老人の幸を求めるプログラムが作成され、その実践の道を明示していかなければならない責任があるのではないだろうか。

近代科学は、新しい技術や利便を社会に提供してくれるが、晴眼者が受ける100の利益も盲人には30にも充たないのである。そして老齢化が進むにつれ、社会と老人の溝は拡大されていくのである。TVが盲人用に改善され、ブラウン管のない音声TVが開発されて、盲人に福音がもたらされたような情報が伝えられたが、TVと盲人が晴眼者のような密着度を与えられてはいない。

近代科学は、新しい技術で色を盲人に伝えてくれるかもしれないし、また光を与えてくれるかもしれないが、晴眼者の想像を越えた盲人社会に「諦めでない福祉」を与えてあげたい気持ちで一杯である。21世紀に向って様々な革新が唱えられているが、障害者が自分の障害を諦めによって慰す時代ではなく、実際に自立できるニューソーシャルを実現することを求めている一人である。

盲老人ホームは、全く新しい観点から盲老人福祉を研究すべきである。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

— 編 集 後 記 —

年をとって気力や体力が衰えてくると、“盲”という障害は、社会生活上、よりやっかいな問題をもたらすようです。問題とまではいなくても、幼ないころからの盲人でどこへでも一人で出掛けていた人が、還暦を過ぎたころから、ちょっとした所に行くのにも奥さんと同伴になったという例を、よく見かけます。それでもまだ出掛けているのならいいのですが、かなり高齢になって失明した場合には、老化と失明のショックが重なって、“社会参加”どころではないという事例をよく耳にします。しかもそういった人たちが急増しているところに、盲老人問題の深刻さがあります。今回の特集は、その辺の事情を浮き彫りにしてくれていますし、盲老人の生きがいを見つけるために、自らが、また周辺の人たちが何をしなければならないかを示唆してくれています。皆さんの御参考になれば幸いです。

新しい日本盲人福祉研究会の図書目録ができました。御希望の方はお送りいたしますので、事務所までお申し込みください。

(田中 徹二)

視 覚 障 害	1985年 9 月 No.79
年間購読料	3,000円(送料とも)
発行日	1985年 9 月1 日
編集人	(連絡先)
日 本 盲 人 福 祉 研 究 会	
〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目 日本点字図書館内 23番4号	
電話(03) 200-1130	
振替口座 東京 6-16103	
発行人	身体障害者団体定期刊行物協会
〒157 東京世田谷区砧6-26-21	
印刷所	合同印刷株式会社
〒130 東京都墨田区業平2-9-13 電 話(624) 6111(代表)	

協賛団体 日本点字図書館